日本統合医療学会 会報
IMJニュース
No.21
2016年1月29日発行

編集･発行　一般社団法人日本統合医療学会広報委員会 委員長　川嶋みどり　URL:http://imj.or.jp/
〒101-0054　東京都千代田区神田錦町2丁目4-13 錦和ビル3階
一般社団法人日本統合医療学会事務局　E-mail:imj@imj.or.jp　TEL:03-6675-4993　FAX:03-5244-5808

巻頭言

追い風に乗って新たな展開へ

仁田　新一　日本統合医療学会理事長

会員の皆様ならびに統合医療推進にご指導・ご協力を頂いている皆様に，謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

４年前に理事長職を受け継いでから，会員の皆様とともに地道な歩みを続けて参りましたが，更なる発展に向かっての追い風を感じるこの頃であります。昨年は，本学会独自の新たな展開を図る上でも幾つかの成果があり，課題も見えて参りました。

第１に，統合医療を真にこの国の未来医療にするための提案です。まず国民皆参加型の医療にしていく上で必要なことは，国民の自覚と実行によって健康情報を集め選択できる環境を整えることであります。そこで，医療提供側の多彩な専門性を活かしたチームワークと連携が求められることになります。

第２に，その基本となるのが未来型医療従事者（専門療法士）育成の課題です。優秀な人材を育てる方策については，関連各専門領域とともに今後検討を進めて参りたいと思います。

第３の成果としては，各地に支部が結成され，今なお，その動きが続いていることです。何よりも，支部活動自体が統合医療の核心となる臨床的エビデンスの蓄積と免疫力の測定法などの開発などにより，新しい科学的評価方法への有力な情報を提供しつつあることです。このような活動をさらに発展させるための統合医療センター創設や，統合医療モデルを提示することも，これからの支部活動に期待するところ大であります。

また，世界の統合医療との接点を結ぶ意味でも有意義な機会がありました。MOAインターナショナル/MOA健康科学センター主催の国際シンポジウムです。本学会も協賛して，東京と京都で開催されました。講師のアンドリュー・ワイル教授は「疾患の予防と健康およびウェルネスの増進には，ライフスタイルと患者の全体を重視する統合医療のアプローチが極めて効果的である」として，「近い将来には全てが統合医療になるので，統合という文字はいずれ消えていくことになる」と述べられました。マイケル・ディクソン博士は「医療政策は患者と地域社会に主権を委ねることにより，セルフケアや健康づくりを加速させることになるだろう」と述べました。日本側からは，これからの未来型医療は日本の文明・文化に根ざした医療が必要であることを前提にした上で，「日本型統合医療モデル」の創生とその科学的根拠付けやエビデンスの蓄積についての現状分析，遺伝子科学や再生医学を包含した予防医療の展開について，渥美，仁田，伊藤，鈴木が，東京と京都のそれぞれの会場で講演しました。我々が示した多職種の集まる統合医療をオーケストラになぞらえ，それぞれのパートに西洋医学，伝統医療，CAMを配置して，その指揮者を医師のみならず看護師や各療法師士などが担うといったことは極めて的を射ているとの共感を示される場面もありました。

この他，IMJと日本ヨーガ療法学会との合同シンポジウムでは，米国MDアンダーソンがんセンター統合医療センター長コーエン博士とヨーガ療法学会からナガラートナー博士をお招きし有意義な討論がされました。コーエン博士は，進行がんへの取り組みについてCAM領域の科学的評価法と臨床的エビデンスの蓄積を図っていて，我々と同様に社会科学的評価法も入れた新しい根拠付けに強い意欲を示されました。今

後両者で共同研究を計画することも実現しそうです。

さて，現在の医療をめぐっては厳しい問題も数多くありますが，高齢化に伴う疾病構造の変化，難治性疾患への対応等からも，統合医療にとってはそれら全てが追い風になることを感じます。そのためにも，医療の受け手である国民個々の皆様の智恵と力をセルフケア能力に高め，生活習慣の改善による予防活動の普及などの実践的課題とともに，統合医療の成果を評価する研究費の拡充などに向けても，会員一同心して前に進みましょう。

公告　委員会の公募に関して

日本統合医療学会理事長　仁田 新一

本学会の活動の活性化を図るためには委員会活動の充実が求められます。そこで，多くの会員のニーズを反映させつつ，諸活動を促進するために，委員会の公募を行なうことが，昨年度の社員総会で承認されました。

ただし，公募に関しては，①全ての委員会が公募を行なうわけではないこと，②委員会への出席回数が，それぞれの委員会で定めた回数に満たない場合は，委員の職を解くことがあることなどが条件として上がっております。

各委員会の公募要領を順次お知らせいたします。学会の将来を担う若い方たちの積極的な応募をお待ち申し上げます。

●応募方法：希望する委員会名と，連絡先アドレスを下記にEメールで送信してください。委員会の求める課題のある場合は添付してください。

●応 募 先：一般社団法人 日本統合医療学会事務局
Eメールアドレス　imj@imj.or.jp

＜公募のお知らせ＞

国際委員会

国際委員会委員長　鈴木清志

目的

・我が国にふさわしい統合医療の概念を構築し，それに基づく具体的な活動を行なうために，統合医療の国際的な活動内容を調査，研究する

・我が国の統合医療の研究を国際学会や雑誌等に報告し，日本の統合医療を世界に発信するとともに，統合医療の国際研究にも積極的に参加する

公募要領

1．公募期間：2016年2月29日（月）まで
2．公募人数：3～4名
3．委員の任期：3年
4．他学会等の関連委員会での実績，経験年数：他学会等で国際委員会またはそれに関連する委員会に所属している場合は，その点を考慮する
5．会員在籍年数：3年以上
6．本学会での地位（会員，前代議員，前理事など）：本学会の会員であること
7．年齢：問わない
8．応募条件：
・英語または他の言語での会話や論文作成等ができる
・統合医療に関連する国際的な学会やネットワークに所属している
・統合医療に関連する国際学会に，自費で定期的に参加する

以上の3つの条件を満たす

エビデンス創生委員会

エビデンス創生委員会委員長　伊藤壽記

エビデンス創生委員会は今年から立ち上がった若い委員会です。

1．厚労省委託事業「統合医療の情報発信サイト」（大野班）と連携し，その中で昨年立ち上がったコクランライブラリー日本支部の中で統合医療部門の翻訳作業を受託する。
2．昨年から始まりました，ウインターセミナーでは，しばらく「統合医療におけるエビデンス」をテーマとして取り上げることとし，次回からは本委員会で人選ならびに企画を行なう。
3．ミネソタ大学のM. Snyder先生らの“Complementary & Alternative Therapies in Nursing”の翻訳事業をサポートしています。

以上，やる気のある若手の委員を募集致しますので，よろしくお願いします。

倫理委員会

倫理委員会委員長　小野直哉

当倫理委員会では，臨床試験などの「研究実施のための倫理規定審査」を完備している大学や研究機関に属さない当学会会員の研究活動の支援を検討している。そこで，「研究実施のための倫理規定審査」の委員を下記要領で公募する。

公募要領

1．公募期間：2016年2月29日（月）まで
2．公募人数：複数
3．委員の任期：2年
4．条件：大学や研究機関，他学会等で，倫理委員の実務経験が在る方。または研究デザインや倫理学，法学がご専門の方
5．会員在籍年数：3年以上
6．本学会での属性：会員
7．年齢：問わない
8．その他：応募者は上記の条件が明記された略歴を事務局に提出し，書類選考の上，後日面接し，採否の決定をする

広報・渉外委員会

広報・渉外委員会委員長　川嶋みどり

本委員会は，広く当学会の普及のためニューズレターの発行，一般向けリーフレットの作成及び関連学会との連携並びにホームページの新規情報の提供と改善を行なう（定款施行細則19条）。

・これまでの主な活動：ニューズレター創刊から20号まで編集，発刊してきました。

・委員会開催頻度：ニューズレターの刊行に合わせて，年４回程度開催し意見交換を図りたいと思いますが，メール会議も可能です。意志の疎通を図って楽しく生き生きとした委員会にしていきたいと思います。

公募要領

会員のみなさまの中で，次のような方の積極的な応募を期待いたします。

1．しなやかな発想と幅広い視野を持ち，統合医療を普及する為のアイディアを企画に活かして見たい方

2．編集作業に関心のある方

3．支部活動との交流を図るため，支部の動きを通信して下さる方

4．会員歴２年以上で，今後も会員継続予定の方

公募人員：若干名

応募方法：応募者は広報委員会への意見，または抱負を書いてＥメールでお送りください（200字程度）

支部だより

愛知県支部活動状況と今後の課題・展望

第１回愛知県支部例会の振り返り

｜福沢　嘉孝｜

愛知県支部･支部長：第１回愛知県支部例会･会長

日本の医療は近代西洋医学を基盤として発展を遂げてきましたが，近年それに加えてヒトの「自然治癒力」を引き出し心身全体を包括的に診る医療としての統合医療（伝統医学，補完・代替医療を含む）の真価が急速に見直され始めています。また，急速な高齢社会に突入した日本では，予防医療の重要性が年々強調されてきており，治療と予防医療の両面から対症療法と原因療法を相互発展・連携させ得る統合医療を推進していくことが急務であると考えられます。これらの現代日本における医療の種々問題点を解決すべく，医療従事者間の知識の交流を図り，社会が直面する少子・超高齢社会に真のチーム医療で対応し，愛知県内の地域医療に貢献することを目的として，愛知支部を2014年９月初旬に設立しました。以下に設立記念「第１回愛知県支部例会」の振り返りを記します。

前日からの降りしきる雨も奇跡的に止み，‘雨降って地固まる’が如く，設立記念「第1回愛知県支部例会」が2015年10月11日，連休最中に開催されました。私はこの日のために，支部長として約１年かけて入念な準備（人選・組織体制等を含む）をして参りました。最も苦労した点は開催場所です。名古屋市から高速で約1時間（新幹線豊橋駅～約30分），‘静岡ミカン’で有名な三ヶ日町の下尾奈地区に聳え立つ会員制高級リゾートホテル「マグナ」に着目し，企画当初から予約を入れました。さらに，その別棟に「KIARAリゾート＆スパ浜名湖」があります。第１回設立記念会に相応しい会場を予約できました。

２番目に苦労した点は人選です。どなたを役員にご推挙すれば妥当なのか苦悩しましたが，幸い種々分野の医療従事者から医療経済学者，海外医学部外科教授に至るまで幅広い優秀な人材を役員としてお迎えできました。

当日は支部長による開会宣言に続き，仁田新一理事長による「特別講演：統合医療の現状と知的展開」，渥美和彦名誉理事長による「特別講演：これからの医療」が行なわれました。講演を拝聴する参加者が大変満足し聞き惚れる光景が印象的でした。その後，コーヒーカンファレンスをオープンし，親睦を深めながらの本支部役員紹介を行ないました。

一般口演では，秋山真一郎先生と飛永芳一先生コラボによる「バイオスキャンにより視野を改善させることができた緑内障の１例」，秋山先生単独による「固形癌に対するマクロファージ活性化治療」と最先端医療の報告を拝聴し，さらに統合医療への関心（興味）が湧出した印象を感じました。

閉会宣言を最後に，設立記念第１回愛知県支部例会を盛会裡に終了しました。

参加者全員の感想が終了直後にメール送信されてきましたが，異口同音に「大変素晴らしい会に感謝します。第２回目以降も参加しますので連絡してください」とのもので，支部長冥利に尽きる思いでいっぱいの支部例会になりました。その後，第19回日本統合医療学会（山口大会，12月12日，2015年）のワークショップ（WS-2）：日本統合医療学会支部報告（地方からの新たな息吹）の中で，再び満足感・充実感を皆様と共に堪能いたしました。

一方，支部例会を開催することにより種々の課題も浮き彫りになってきました。それは，①参加者の専門領域をより一層拡大することにより，より多くの参加者を募

マグナリゾートホテル＆KIARA

る必要がある，②愛知県支部と他支部との連携共同開催の問題，③中部・北陸ブロックとしての幅広い活動の問題（ロールモデルは九州ブロック），④学会本部とのより一層の連携強化の問題，⑤年1回の支部例会以外の勉強会・研究会の開催の必要性，⑥資格認定取得用の講習会の開催の問題など多岐にわたります。

今後の展望としては，これらの種々課題をいかに克服しながら，同時に①科学的（社会科学・物理化学）評価と，②臨床的EBMの蓄積をいかに着実に遂行するかが重要な鍵となってくると考えられます。そのためには，各ブロック同士の連携・研究体制の構築も必要となるでしょう。これらが上手くリンクできれば，仁田理事長構想の統合医療センターの設置による本学会の知的展開も実現可能になるものと考えられます。

今後も統合医療の更なる普及・進展と実践のために，愛知県支部は各支部との連携を強化し，支部活動の拡大・拡充を図る所存ですので，本学会の会員の皆様，関連領域の皆様のご支援・ご協力を何卒宜しくお願い申し上げます。

※第１回愛知県支部例会プログラム参照ホームページ
http://www.magna-resort.com/information/2_55efb836f399b/index.html

支部だより

日本統合医療学会広島県支部の設立と設立総会・記念講演会の開催

｜岡村　仁｜
広島県支部長（広島大学大学院医歯薬保健学研究院）

日本統合医療学会18番目の支部として広島県支部が承認され，2015年６月21日に広島大学霞キャンパスにおいて設立総会および記念講演会が開催されました。

設立総会では，今回，広島県支部に登録された個人会員31名が全員集まり，会則や予算について意見交換し承認が得られるとともに，役員（支部長／岡村仁，事務局長／野坂見智代，理事／諫山憲司，監事／竹内道弘，会計／野間万里子）が承認を受け，正式に支部としてスタートを切りました。

設立総会に続き，記念講演会が開催されました。まず，河野明正日本統合医療学会事務局長からご挨拶をいただいた後，仁田新一理事長の講演「統合医療これからの展望」が行なわれました。統合医療の歴史から最新の情報，またご自身の研究成果も踏まえた統合医療の今後の展望について拝聴し，改めて統合医療の深さと広さを感じることができたように思います。

次いで，平成27年度の学会大会長である柴田眼治山口県支部長の講演「IMJ山口県支部の設立と活動」が行なわれました。広島県支部の立ち上げにあたり最も参考にさせていただいた山口県支部のこれまでの活動を具体

的に拝聴でき，広島県支部の今後の活動に大きな示唆をいただきました。

多くの方々のご支援をいただき，今回，広島県支部を立ち上げることができましたことに改めて感謝申し上げます。支部会の会員一同，重要なのはこれからだと考えています。今回の立ち上げ時の熱意を失うことなく，更なる支部の発展を目指すと同時に，我々が今後統合医療においてどのような貢献ができるのかを，支部全員で考えていきたいと思っていますので，引き続きご支援，ご指導をどうぞよろしくお願い申し上げます。

支部だより

第17回日本統合医療学会（IMJ）北海道支部会

｜猪股　千代子｜
日本統合医療学会理事･北海道支部評議員

2015年10月24日（土）14時～18時，藤女子大学（札幌市北区）において第17回日本統合医療学会（IMJ）北海道支部会が開催されました。参加者は56名でした。

藤井義博支部長の開会宣言に続き，日本統合医療学会仁田新一理事長より，全国各支部の活発な活動をご紹介頂き，大変刺激を受けました。プログラムの概要は下記の通りです。

＜一般演題発表＞

座長：片桐雅樹医師（特定医療法人北楡会札幌北楡病院消化器科）

演題１．「針刺激が長潜時反射（Long Latency Reflex）に及ぼす影響」二本松明（北海道鍼灸専門学校）

演題２．「瞬目反射に対する徒手鍼刺激の影響」玉田蓮（北海道鍼灸専門学校）

演題３．「過敏性腸症候群とパニック障害に悩む方へのマインドフルなアプローチ」佐高葵月代（認定ヨーガ療法士会・北海道）

演題４．「黄帝内経の健康理念と処方による健康回復成功事例報告」陶恵栄（陶氏診療院院長）

＜特別講演＞

１．「統合医療の在り方」川嶋朗（東京有明大学教授），座長：藤井義博（藤女子大学副学長）

2．「統合医療のケアの特徴」猪股千代子（札幌市立大学看護学部教授），座長：大湊隆次郎（北海道鍼灸師会会長）

＜参加者の感想･意見＞

- 皆様のアイデイアを生かした北海道支部活動を展開しましょう。
- 統合医療実践者であるのに，私自身が「お任せ医療」になっていることにも気づき，とても恥ずかしくなりました。統合医療実践者自身が自身との対峙を経験していなければ，クライエントにもその方法を伝えることは無理だと思います。クライエントに統合医療自体の怪しさを感じさせてしまったり価値観を押し付けられたような印象を与えてしまったりしてしまうのは，かかわる人間の意識の低さもあるのだと思います。自己研鑽は欠かせないことであると改めて強く実感しました。
- 現代の食事はカロリーと成分ばかりが強調されているということ，生命は太陽のリズムに合わせていくと病気にならなくなるということ，一見当たり前のことが現代では忘れ去られているのだなと感じました。すべての人間が持つ，本来の生命力の強さを引き出すかかわりを，一貫して続けていらっしゃる陶先生の信念を感じました。
- 誤認知が変わらない方への応対は，時間がかかることが多いことや座学をメインにすること，宿題を持ち帰っていただくなどの方法があることを提示しアーサナ（体操）をするよりも瞑想をする方が，認知の変化は速いという説明がありました。これはヨーガ療法が得意とするものであり，心身相関の医学として今一度，理解していただけるきっかけになったのではないかと感じました。
- 私にとって統合医療学会北海道支部は医療従事者や鍼灸師，柔道整復師，各専門の療法士などが経験や体験をされたことを研究し，発表している貴重な場だと思っております。学会を通じて得たものは統合医療というのは，どの専門分野の方でもコンダクターになれるように常に勉強をし，自分を高めていくという点です。他では経験することのできないお話がこの学会にはあります。今後も毎年かかさず参加したいと思っております。
- 市民の健康観，つまり病院や行政が何とかしてくれる感覚から，日常の生活習慣や自助意識に立った予防，治療，健康増進を含めた概念で健康問題を見直す必要があることと，具体的な仕組みづくりが課題だと考えます。

★来年度の予定　2016年10月22日（土）第18回支部会，10月23日（日）資格認定セミナー

いずれも藤女子大学で開催予定です。ホームページ（http://imj-hokkaido.jp/）が完成しましたので，情報交換の場として活用して下さい。北海道で頑張っている方々とつながって，パワーアップしましょう。

寄稿

2015年サマーセミナー参加印象記

｜宮森　孝子｜
マリアズリリーアロマテラピースクール

昨年サマーセミナーへ初めて参加させて頂きましたことは，私にとりまして知的にも心的にも実り多きものとなり，心より感謝致しております。

日常時（健康時，養生時）非日常時（病気の時，災害時）にいかに「自助」「公助」でよりよく生き残るかにおいて，仁田先生の仰る「未来型医療としての統合医療」がいかに役立つか，その根拠や可能性を最先端の先生方のハイレベルなご講義を通して，新たな知識と視点の獲得また意義の確認ができたような気がいたします。またワールド・カフェ形式の話し合いでは講義に関連するテーマを根幹にさまざまな視点が持ち寄られました。渥美先生の魂に関するお話に深く心が響き，またヨーガや鍼灸の有用性に関するお話しを伺い，パブにいるように気楽に自分の考えを述べたりできましたことは，今後の自身の方向性やモチベーションの確認となり，とても有意義でした。さらに懇親会では先生方や皆様の人間性溢れる側面に心もほっこり暖かく，知的にも心的にも豊かに楽しいセミナーでした。

この意義深い統合医療学会を創設され，ご尽力くださっておられる渥美先生ご夫妻，仁田先生，理事の先生方，講義をされた先生方，事務局の先生方に心より感謝申し上げます。

今まで医療は科学の最たるものと捉えていましたが，山家先生の「人間のカオス的ダイナミックスを数理化して人工心臓を作ったが，それに1/ｆのゆらぎを与え続けるとカオスを生ずる」とのお言葉が印象に残りました。科学も大事だと思いますが，個々人の生命現象は日々さまざまなゆらぎ（ストレス）の中で営まれているにもか

かわらず，それでも生き残り，いまだわけのわからない大きな力動の中で自ら微調整できる不思議なシステムだと今さらながら感銘を受け，人間のこの与えられた命に敬意を表し，謙虚にそれを支える方略の１つとしてアロマテラピーでも介入できたらと大きな夢を抱きました。

マリアズリリーアロマテラピースクール
沖縄県那覇市松山2－12－16　4F
TEL&FAX：098-867-3193
E-mail:tm.mariaslily_02@me.au-hikari.ne.jp

寄稿

第35回日本看護科学学会学術集会：「未来看護」への展望を交流

｜大野　夏代｜
札幌市立大学

2015年12月5日（土），広島国際会議場で開催された第35回日本看護科学学会学術集会において，「健康長寿社会を実現する統合医療とポジティブ看護―自然治癒力を惹起させる七感に働きかける未来看護の潮流」をテーマに交流集会を行なった。企画代表者の猪股千代子氏（札幌市立大学）のキートークでは「統合医療看護の可能性」，「患者のニーズに沿ったケアを実現するためのチーム医療」について話題提供し，看護師でありヨーガ療法士である大瀧真美氏は「呼吸法ミニ体験」を会場の参加者と共に行なった。本学会の看護部会の中心メンバーの他，約60名の看護師や研究者・管理者が参加し，“意図的な呼吸”を通して，自分の身体や気持ちのありようを吟味する体験をした。また「癒しのケアの実践家」からの熱いメッセージは，会場の参加者に関心をもって受け入れられた。セッション終了後も活発な質問や感想が寄せられ，全体として統合医療看護への追い風を実感する発表の機会となった。

日本看護科学学会は，会員数8,000名を超える学会であり，当日の参加者も3,000名を超えた。ここで発表し意見交換できたことは，「看護全体の中で統合医療にどのように取り組むか」「統合医療の中で看護は何ができるのか」などの検討を進める力になると感じた。

交流セッションへのメッセージ

岡田　朱民（京都学園大学）

本企画に対して，全国の「癒しのケアの実践家」から，メッセージが発信されました。

「傾聴的態度と意図的タッチ」「ホリスティックナーシング」「リラクセーション」「マッサージ」「タクティールケア」「泡による足浴」などの実践家たちからで，そのどれもが現代社会や患者のニーズにこたえるべく技法や技術であり，そのコアは対象の自然治癒力を引き出そうとする看護の本質そのものであったといえます。西洋医学のみの治療の限界を補完する新しい技術を生み出していく取り組みこそ，看護におけるイノベーションであり，未来看護に相応しいと感じました。

インフォメーション

市民公開講座**「ネクストクライシス（来るべき大規模災害）への備え，自助・互助・共助・公助で出来ること－生き残るのはあなた次第－」**

日時：2016年3月6日（日）　13：00～17：00
会場：千里金蘭大学（大阪府吹田市藤白台5－25－1）
佐藤記念講堂
TEL：06-6872-0673（代）FAX：06-6872-7309
阪急千里線「北千里」駅下車、徒歩10分
主催：文部科学省科学研究費助成事業（挑戦的萌芽研究）研究班　「大規模災害における後遺障害に対する統合医療的戦略」
共催：千里金蘭大学，大阪大学大学院医学系研究科統合医療学寄附講座

事務局だより

【会議開催報告】
- 2015年12月11日　平成27年度第1回通常理事会（山口）
- 2015年12月12日　平成27年度第2回業務執行理事会（山口大会）
- 2015年12月12日、13日　第19回日本統合医療 学会学術大会（山口大会）
- 2015年12月13日　平成27年度支部運営委員会（山口 大会）

【学会事業報告】
- 2016年1月8日　平成28年学会役員と賛助会員の新年交流会（アルカディア市ヶ谷）

【今後の学会事業予定】
- 2016年2月7日　平成27年度ウインターセミナー（東京大学医学部教育研究棟13F）
- 2016年6月3日　平成28年度社員（会員）総会（会場未定）

（文責：事務局長　河野　明正）

編集後記

●丙申（ひのえ・さる）の年は，60年周期で回ってくるといい，一説によれば積もる努力が実を結ぶ年とも言われています。是非，統合医療の発展の年にしたいと願います●松の内が過ぎて最初の催しは賛助団体のみなさまとの交流でした。統合医療を国民の普遍的な医療にするための産学協同歩調の力に期待します●全国に拡がる支部の力も心強い限りです。発展と交流を祈念します●本年もどうぞよろしくお願いします（川嶋みどり）